

# ウオッチ！ 旭山動物園

Ⓣ  
坂東副園長と紙さんが対談

## 命「いただく」尊さを伝えたい

紙 智子・参院議員 動物園を見ていて、たくさんの手作りの看板や説明文があって、これまで以上に動物のことを知ることができました。実際に動物の毛並みや、骨の仕組みに触ることができて驚きました。

紙 みんなの総意が生かされているのですね。赤字で廃園寸前の動物園がここまでくるには相当の苦労があったのではないですか。

坂東 私たち職員は個々の能力が高いわけではあり

ません。総合力が高いのです。私も統率力が高いわけではありませんが、私は「動物たちのすばらしさを見せる」ことを軸にして、串（くし）刺しになっ



顔を出したアザラシにあいさつする紙さん（左）と、案内する坂東副園長

増で、残念なことにペンギンに触ったり、ヒヨウに右を投げたり、フラッシュ禁止のアザラシ館でフラッシュで撮影したり、



手を触れられるくらい近くから見る事ができるペンギン館

## 平和であってこそ感動が

紙 私も、と畜場に行っ

て、今まで生きていた命を

とって生肉にする現場を見

ると、酸臭な気持ちになり

ます。もっと感謝し無駄に

してはいけないと。人間は

もちろんですが、牛に対

してもBSE（牛海綿状脳

症）のような異常な病気を

起こさせてはいけないと強

く思うのです。

坂東 命を食べることに

大切さを知り、食をもっと

見直してほしいと思いま

す。食は人間の生命線

です。それも動物園で伝え

たい。

紙 旭山動物園は命の尊

さを伝えてくれています。

かつて動物園から動物がい

なくなつた時代がありました。

戦時中に動物はみな殺

されてしまいました。平和

であってこそ、動物たちを

見て感動することができ

と思うのです。

坂東 本当にそうです

ね。平和でないと動物は

られませんか。アフガニスタ

ンやイラク戦争で、中東の

山岳地帯に住むペルシャヒ

ヨウがどうなったのかわか

らない。人間が豊かで幸せ

でない動物のことも考

えられない。しかし、日本

は本当に平和なのかと疑問

を感じます。

紙 最近は何もない動きが

目立ってきていますね。憲

法を変えて、日本を戦争を

できる国にしようとしてい

ます。

坂東 日本の社会も不安

ですね。動物の中では、子

どもを守れない動物の種は

絶滅してしまいます。サル

山を見ていても一番大事に

されているのが子ども

です。子どもが順位争いに

巻き込まれて死んでしま

うと、その種は危ない。日本

はこんなに豊かでも子ども

を守れていない。動物園の

役割と可能性はどんどん広

がっていると思います。ど

んな芽を出すかわかりませ

んが、小さい種をまき続け

たいです。

紙 私も人と動物の命と

暮らしを守るようにさら

に国会で頑張ります。今日

は案内していただいてあり

がどうございました。



坂東副園長（左）の案内で、旭山動物園の説明を受ける紙さん

紙 生き生きと働いているように感じました。それぞれのオリの前に職員さんが立っていますね。

坂東 お客さんを見ています。私たちは全国でも珍しく、動物との距離がとても短い。手を伸ばせば触れられるものもあります。私たちはお客さんがルールを守ってあげることで、動物に対して「干渉しない」ことを前提にして施設

動物の健康面でよくない行為は後を絶ちません。職員をオリの前に立たせていると、職員のストレスも大変です。

紙 みなさんの苦労も多々あります。お母さんにも聞いています。「いただく」とは尊い命をいただきますという意味です。動物園にはヒヨコやウサギなど小動物と触れあえる場所があります。そこでは子どもたちに「このヒヨコも